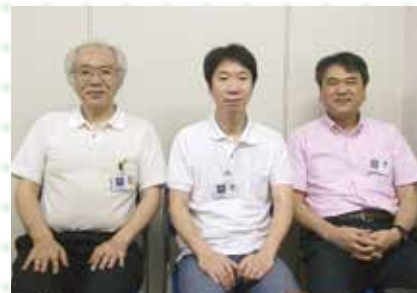


新村印刷 株式会社

●代表者／代表取締役社長 新村 明義 ●創業／1931年
●所在地／東京都千代田区九段北 3-3-5 ●URL／www.niimura.co.jp

生産効率が大幅に改善 「Remote」本格始動



(左から)名古屋氏、石原副部長、齋藤部長

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ(株)(FFGS)の「XMF」は、社員の意識と行動を変えるとともに、工務・営業・制作現場のすべての部署を活性化させる次世代ハイブリッドワークフロー。「XMF」の採用により、さまざまな効果を挙げている会社も増えています。本冊子ではその活用事例を紹介いたします。



新村印刷(株)の創業は1931年(昭和6年)。本社のほか、埼玉県狭山市に工場を持つ。輪転2台、枚葉6台の印刷機を軸に商業・包材・出版・証券印刷物の受注から設計・開発、印刷加工および納入まで

幅広く事業を展開。「All in One」構想のテーマのもと、マーケティング、プランニング、デザイン、印刷、納品・デリバリーまで一貫して請け負っている。

FUJIFILM製品は、「XMF Complete」「XMF Remote」「X Bucket」「PRIMOJET-XG」「富士ゼロックス DocuColor1450GA」などを保有。かねてから、ワークフローの標準化を目指していたが、具体化したのは3年前。主要機能をフル装備したハイエンドシステム「XMF Complete」や、クライアントや部署間でのデータ入稿や校正・検版・承認が自由自在といったWebポータル「XMF Remote」などの採用により、制作から刷版まで「XMF」で一貫したジョブ運用を実現、作業工程を自動化し収益改善をはかっている。



作業工程自動化にひと役買った「XMF Complete」

当時、営業部から情報処理部に移って間もなかった齋藤寧情報処理部部長はいう。

「FPGSのプレゼンを聞いて、最初に着目したのが『XMF Remote』。インターネットを活用してデータ入稿から校正作業まで、iPadを使ってできるということが、夢のように感じた」

原稿や校正の受け渡しで、得意先と会社を行ったり来たりし、会社に戻れば書類づくりや見積りの仕事があり、そういった作業にかなりの時間を費やした経験があったからこそだ。

さらに「これは行ける」(齋藤部長)と確信したが、「XMF Complete」。

「当初こそ、戸惑いはあったが、一番のメリットは台割や面付け機能が優れていること。ページサイズが異なっても、パターンの自動変倍により、テンプレートを簡単につくり変えられる。従来は専用機でテンプレートを作って、それを読み込んで流すという感覚だった」と、石原浩情報処理部副部長。

また名古屋徹氏は、「設定しなければならない項目が多かったが、使いなれるに従って、入稿データ

の前処理や自動センタリング機能により大幅に時間短縮ができた」と使い勝手の良さを強調する。

印刷会社は受注産業であり、どうしても仕事が集約してしまうことがある。その際は外注に委託することになるが、同社ではワークフローの構築によって生産効率を改善し内製化を進めた。現状はカラー分解、フィルム製版、校正刷りなどを外注に委託し、編集作業などは自社内で対応している。

「作業工程を省力化すれば、リスクが減り、コストも減る。残業も減る。製版(プリプレス)分野の作業はフィルムを使っていた時代とは様変わり。いまやデータでのやり取りが主体でサービス部門のようだ。原稿の移動はナンセンス。収益をアップするならば、行きつくところは効率化である」と齋藤部長。

「XMF Remote」については、バージョンアップに伴い本格的に始動を開始した。今後はオンライン校正や、パッケージジョブのシステム統合、Mercuryアーキテクチャによる、より一層の生産性向上を目指すとしている。